‘１４．１０．１９

「立花隆氏講演会」アンケート　○回収：２３６（実入場者５２０名の４５％）

|  |
| --- |
| 目次：Ｑ１－（１）今日の講演会のご感想・ご意見・・・当てはまる所に。・・・・・Ｐ．１  　　　Ｑ１－（２）ご感想・ご意見あれば   1. 大変良かった方　　　　　　　　　　　　　　　・・・・・Ｐ．１ 2. 良かった方　　　　　　　　　　　　　　　　　・・・・・Ｐ．５ 3. 良くなかった方　　　　　　　　　　　　　　　・・・・・Ｐ．８ 4. 全く良くなかった方　　　　　　　　　　　　　・・・・・Ｐ．８ 5. どちらでもない方　　　　　　　　　　　　　　・・・・・Ｐ．８ 6. 未記入の方　　　　　　　　　　　　　　　　　・・・・・Ｐ．10   　　　Ｑ２　開催に当たってお気づきの点があれば　　　　　　　　　　　・・・・・Ｐ．10  　　　Ｑ３　「吹田ホスピス市民塾」の今後の活動について、ご意見やご希望を　・・Ｐ．12  　　　Ｑ４　お住まいは。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・・・・・Ｐ．14  　　　その他（入会者、配布物）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・・・・・Ｐ．14 |

Ｑ１－（１）今日の講演会のご感想・ご意見・・・当てはまる所に。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 大変良かった | ７８ | ３９．６％ |
| 良かった | ９５ | ４８．２％ |
| 良くなかった | ９ | ４．６％ |
| 全く良くなかった | ０ | ０％ |
| どちらとも言えない | １５ | ７．６％ |
| 計 | １９７ | １００．０％ |
| 未記入 | ３９ |  |

Ｑ１－（２）ご感想・ご意見があれば

1. 大変良かった方

|  |  |
| --- | --- |
| 1 | 生きている限り、がんは避けて通れないという言葉。まさに他人事ではない話でした。がんになってもその人らしく生きていける活動をしてくださっている会がある事が非常に心強いです。立花先生のまだまだ語りつくせないといった話、また続きを聞いてみたいです。 |
| 2 | 立花先生の本で、長年刺激を受けました。今回もさすが先生だと思いますが、がんの本質が見えてきたような気がしました。テレビで最近、再発したと仰しゃっておられ、心配しています。今回、再発はないと言っておられ、ホッとしました。 |
| 3 | 立花先生の自分の経験をもとに生の話を聞けて良かった。 |
| 4 | 立花先生の本を以前買い、一度お会いしたいと思っておりました。私は近藤誠先生の本を読み、お二人の本から私なりに考えて生活しております。 |
| 5 | 難しい話かと思ったが、よく分かった。がんからは逃げられない。 |
| 6 | 色々とためになるお話でした。有難うございました。 |
| 7 | がんとは何なのか。（生きるとは？）と、考える機会ができました。有難うございます。 |
| 8 | 代替医療の説明は今まで知らないことで、ためになった。最終どのような形で人生を終えるのかは本人で決めれない事である点は、今後自分自身考えていかねばと思った。大変、参考になった。 |
| 9 | 筑紫哲也氏の生々しい残日録を立花氏より知らされ、私には未だ経験したことがないが、がんという病気にいかに向き合うべきか（難しい問題であるが）を考えさせられたお話しであった。良い参考になりました。 |
| 10 | 「がんは人を狂わす」ものだということを冷静、客観に知らされました。生きることはがんを育てるという生命が私であるということ。先生の「安楽死」という言葉が口に出される前に、私も同じことを社会として認めてほしいと思いました。それでも社会のケアが必要とされる病気なのですね。人間は死すべきものだということを徹底的に思うことの必要性を。  先生、お元気で良かったです。どうぞまだまだ鋭いお話を。 |
| 11 | もう少し希望のある話をと思いましたが、現実的でした。 |
| 12 | 立花先生の分かりやすい説明で、良かった。 |
| 13 | 近藤さんの話も、また、がんの具体的な現実まで講話してもらい、非常に良かった。生きることの意味も考えさせられた。 |
| 14 | がんに対する見方が変わった。今後どう対処したらよいかを考える大きなヒントが得られたように思う。 |
| 15 | 自分の知らない事、代替療法など、いろいろ考えさせられることがありました。がんを身近に感じ、「もしがんになっても、向き合っていける」と感じました。 |
| 16 | 母ががんで亡くなりました。少しがんを受け入れられるようになった。 |
| 17 | 私も父をがんで亡くしましたが、本日の内容はとても現実的でリアルながんの話でしたので、分かりやすく、共感しました。有難うございました。 |
| 18 | 身近にがんで亡くなられた方が大勢います。早く完治できるようになってほしいと思います。役に立つ有難い講演会でした。今後も頑張っていきたいと思います。 |
| 19 | 完治せずの覚悟ができる。 |
| 20 | 立花先生のお話は分かりやすく、役に立った。 |
| 21 | 知人ががんの末期になった時、ウトウトがいいですか？ハッキリわかった方がいいですか？何もしないで全く分からない方がいいですか？そんなやりとりを思い出しました。  彼女はウトウトと答えましたが、その後モルヒネがどんどん増えて、彼女は体も顔もたちまち小さくなって、亡くなりました。  立花先生のお話は、とてもがんになっても自分だけの不幸にない、たかが１０年、２０年の差は、とても生きていく事に大丈夫という納得ができました。有難うございました。 |
| 22 | 立花先生、ほとんどお一人で長時間話していただき、それだけで如何に大勢の人の事を思いやって下さっているのか、勇気と感謝を頂きました。有難うございました。 |
| 23 | 父のがんがきっかけで、この講演会に来ました。今まで「がん」か「がんでないのか」の２つに分けて考えてきましたが、私たち誰もががんを持っており、発病化か未病化の違いに過ぎない事が分かりました。誰もが、がんと生きる、立花さんのスライドにあったように、「死ぬまでちゃんと生きること」が重要なのだと分かりました。また、がんの治療について、これだけ色々な考え方や説が飛び交っている背景についてもよく分かりました。有難うございました。 |
| 24 | がんと向き合うのは、本人にも家族にも時間が足りません。闘病にしても緩和にしても、時間と情報と足りないのを実感しています。立花さんの今後の情報発信を期待しております。 |
| 25 | まず、生物（人間）は死ぬものからスタート。代替医療が金のワラになっているのは、日本が医療で恵まれている反動でもある。薬が保険にどんどん適用され、余った財力がそちらに進む。ターミナルの知人が免疫療法等に行っているが、医師仲間だから、主治医も決して△や×と言わない。 |
| 26 | 緩和治療の重要性、特にがん発症を初期からの情報提供の重要性については新知識で、共感しました。抗がん剤治療の効果対苦痛・生活障害費用（副作用）の現実を、もっと一般に知らせる必要がある。 |
| 27 | 理解できない部分もありましたが、がんとがんもどきの話は、新しい発見でした。 |
| 28 | 大変良かったです。活動を継続してください。 |
| 29 | がんに対する知識が進みました。 |
| 30 | がんを今までとは違う面から考えられた。がんになった人たちの言葉を通して、がんになったならなかったに拘わらず、どのように生きるのがいいかを教えてもらった。 |
| 31 | 大変良かったです。専門的にも、勉強になることが多くありました。有難うございました。 |
| 32 | いつも本やＴＶで拝読・拝見している立花先生のお話を聞く機会があり、大変うれしく思います。今までは、安楽死の事まで深く考えずにおりました。（肯定派ではありましたが）しかし今回の話で、綺麗ごとではなく、真実の大変さを改めて感じることができ、生命について、そして死を選ぶことについて、更にはその当事者の心の奥の真理についてまで考えるきっかけになりました。本当に有難うございました。 |
| 33 | 今までのがんに対するイメージがかなり覆された気がする。かなり怖いといった感想を持った。日本の医学は進歩しているものの、メンタルなケアがかなり遅れているなと思う。苦しいがんの治療に対し、宗教あるいはメンタルな面での助けがなくては自殺しかないとはかなりお粗末極まりない国のありさまである。立花先生の話はとても意義があったと思われます。 |
| 34 | 「がん」を知る良い機会となりました。「金のワラにすがるな」⇒考えさせられました。 |
| 35 | 分かり安かった。 |
| 36 | 「がん宣告」を受けて、どのように立ち向かうかは、その個人の生き方の姿勢によると思う。  １０余年前、夫（大腸がん）、娘（悪性リンパ腫）があいついで「がん」になったが、医療、病院（医師）の進めるままの治療を避けて通ることはできない。これでいいのだと信じるしかないし、疑う余地（セカンドオピニオン）、時間がなかった。末期の痛み、苦しみは取り除く必要がある。⇒尊厳死、安楽死は肯定したい。 |
| 37 | がんの正体が整理されて、分からないということが分かった。 |
| 38 | 今、脳腫瘍があるが、良性と医師に言われたが、症状として頭痛があるのでセカンドオピニオンを受けようと思っている。厳しく、チョットショックな話でした。でも、覚悟も必要かと！ |
| 39 | がんのデータを取る仕事をしています。今日はとても勉強になりました。立花先生はとても素晴らしいです！ |
| 40 | 少々難しかった。知らない事が多かったので、ためになった。がんとは何か、多少わかった。講師の熱意が伝わってきた。 |
| 41 | 安楽死について、もう少し掘り下げて聞きたかった。 |
| 42 | 「がん」と向き合う厳しさを学んだ気がします。適当な解釈で死を語ってはいけないと感じました。難しい事ではあります。人間は弱い生き物ですから。 |
| 43 | がんについて良く知ることができた。 |
| 44 | がんについて詳しく知ることができた。 |
| 45 | 有難うございました。立花先生のお体が良くなり、益々の執筆、講演活動が続けられることをお祈り申し上げます。 |
| 46 | 大変良かったです。こういう場を設定していただいて感謝しています。 |
| 47 | 豊富な実例で、素晴らしい講演会でした。期待通りです。参加できたことを幸運に思います。 |
| 48 | 人選が良かった。深く考えさせる内容だった。次回も期待しております。 |
| 39 | 緩和ケアに対する考え方・・・時代と共に変化。がん患者だが、安楽死を選ばざるを得なくなる前に、何とか治療が完結してほしいと切望する。 |
| 50 | 「がん」について他人事と思わず、自分がなった時を考える今日をきっかけにしたいと思う。 |
| 51 | スライドも用いてよく分かった。とても勉強になりました。これから色々と参考にさせて頂きます。 |
| 52 | ご自身の経験をもとに話されるので、とても考えさせられた。 |
| 53 | がん治療の実態が読めた。自分ががんになった場合の心の準備ができた。精神生活の充実を図ること。 |
| 54 | 「がん」に対する覚悟。 |
| 55 | 医療用麻薬、安楽死まで向き合うべき問題点の大きさを感じました。 |
| 56 | 分かりやすくて良かったです。 |
| 57 | 私も膀胱がんで要観察中です。先生の話を聞き、私の感じていたことと同じで、大変勇気をもらいました。今後はこの経験を同じ悩みの人のお世話ができればと思っています。有難うございました。 |
| 58 | 死に対する心得について、同感するところがありました。人間は生まれてきた時から死は不可避です。死をくよくよするより、死の恐怖が起これば他の考えに切り替える必要があるのは、同感です。ですから、苦悩を伴う治療は一切やるべきでない。（それは医者を苦しめるだけですから）次に、最近関西の有名大学教授（医学部）が自分は今まで緩和ケアは抗がん剤治療の終わった段階で、どうしようもなくなった時やるべきであると考え、実施してきたが、これは大きな間違いだった。患者を苦しませ、死なせたことを反省していると申されていました。 |
| 59 | 初めて生で講演聞かせて頂いた。大変共鳴できる内容と力を頂いた。感謝！ |
| 60 | 中身の濃いお話で、参加して良かったと思っています。夫ががんになったことで、がんに対して十分な知識を得たいと思い、その時々本を読んだり、講演に参加してきました。戸塚先生の記録も月刊誌で読んでいますが、改めてその記録の凄さに驚いています。がんは他人事ではないし、これ程がんについて一般的でない話を聞く機会はないと思います。有難うございました。本当に有意義な時間を過ごすことができました。夫は寛解状態で１０年以上たっていますが、再発の心配は本人も私も十分に抱えています。希少内腫についても内容を知ることができ、良かったです。 |
| 61 | 緩和ケアを、医師だけ病院だけの問題ではなく、がん患者個人個人の問題として捉える必要があり、その啓蒙方法が拡がってほしいと思います。 |
| 62 | すごく良かったです。有難うございました。 |
| 63 | 緩和治療の大切さを知りました。 |
| 64 | がんについての現状。治療と闘病の経験・経過も聞けて有意義でした。 |
| 65 | 大変良かったです。大変勉強になりました。本当に、私の人生に大変役立つ立花先生のお話でした。一生の宝物となりました。本当に有難うございました。 |
| 66 | 代替医療～ワラをも掴む～誘惑には心して対処したいものですね。50/50の状態で、本人の冷静な判断は難しそうだ。（医者も指南できないし…）  「イラク戦争」の教訓は重要だと思っている。（悪者は倒せ！） |
| 67 | シビアな内容を含んでおり、大変勉強になった。如何に共生していくかが重要なテーマであると理解した。 |
| 68 | 若いころから憧れ、尊敬していた立花隆さんの講演会に来れて、とても嬉しかったです。 |
| 69 | 母が膀胱がんなのですが、くよくよ　くよくよ考え込んでいます。今日のお話を話してみます。 |
| 70 | 立花さんが親しくされていた筑紫さんの闘病状況や近藤誠さんの説の是非について、丁寧にお話してくださり、お話に引き込まれ、あっという間に時間が過ぎました。熱心にご講演してくださり、感謝いたします。職場の方で末期がんと診断された方がおり、講演に来させていただきましたが、自分が将来なるかもしれないがんとどう向き合ったらよいか情報を頂き、少しがんになる事への恐れが少なくなりました。立花さんの益々のご活躍をお祈りします。 |
| 71 | かなり専門的な内容だったが、面白かった。 |
| 72 | 「がんは分からない」ということがとてもよく分かりました。近藤Ｄrの本を私も読みましたが、同じように、私も半分は理解でき、半分は違うなと感じていたので、立花氏の話はとてもよく分かりました。 |

1. 良かった方

|  |  |
| --- | --- |
| 1 | 実際にがんにかかった人の記述をもとにした話は、もし自分がそうなったとしたら、参考になる部分があった。 |
| 2 | がんは誰でもなることを知り、なったらどうするかと自分の事として考えられました。 |
| 3 | 色々と考えるところがあり、そういう意味では良かったです。身内が何人かオペで死を経験し、・・・。（文字不明） |
| 4 | お手伝いなさっていた先生のお隣の女性は、進行が鮮やかで、先生のお話と共に良かったと思う。 |
| 5 | ご自身ががんを体験しただけに、話に説得力があった。 |
| 6 | 後半の症例紹介が長い。もう少し今後の在り方についてのご意見を伺いたかった。 |
| 7 | もう少し、ご自身の体験談もお聞きしたかった。 |
| 8 | 貴重な事例に基づいての話に聞き入ることができました。 |
| 9 | 家族あるいは身近にがんを患った人がある場合は理解できるかもしれないが、少し難しかったのでは。さすがジャーナリストだけあって、医者や製薬会社が行うセミナーとはちょっと切り口が違って面白かった部分もあった。 |
| 10 | 少し聞き取りにくく、理解しづらい部分があり、残念なところはありました。 |
| 11 | ３年（？）前の秋に、アウシュビッツ収容所跡で、学生たちと歩いておられる立花先生を娘と共にお見かけいたしました。６年前の秋、そのアウシュビッツでスケッチを描いた後、その旅の途次で不慮の死を遂げた息子も、東大で先生の講義を受講しておりました。「臨死体験」以来（「宇宙からの帰還」もそうでした）人間の生と死の問題に取り組んで来られた先生のご発言に、願いのような思いを持って接してきました。今回、直接のご講演をお聞きして、心強い思いを頂きました。 |
| 12 | 話しが聞き取りにくく、分かりにくかった。考えさせられた。 |
| 13 | 講演をお聞きし、「がん」への恐怖が和らぎましたが、「がん」という病気の種類も多く、厄介な病気であるということも分かりました。 |
| 1４ | 人間はがんと共存している。そのがんと、どういう風に付き合っていくか。 |
| １5 | 全般に難しいと思いましたが、とても１回くらいでは理解できるものではありません。ただ、「がん」と「死に向かう」ことへの関心は考えさせられます。自分の身の上になった時に初めて、今日の講演が感得できると思いました。 |
| 16 | １時間半は、少し短い気がしました。もう少し聞きたかったです。自分ががんになった時、ある程度緩和ケアを受けながら、精一杯やりたいことをやっていきたいと思いました。 |
| 17 | 「がんとどう向き合うか」結論があいまいで、よく分からない。治療方法を選ぶのか、社会復帰できるためにはどうしたら良いのか、少々具体性のある結論がほしかった。 |
| 18 | がん細胞により６０兆の細胞遺伝子がそのルール通り生きていけるとのこと。すべての人間動物はがんを持っていて、死ぬまでに１cmになるかどうかだけの差。あと１０年生きてまで知らねばならぬ程の大事はない…と理解、心が軽くなった。 |
| 19 | 安楽死できる日本を望む。 |
| 20 | がんについての知識を知りました。 |
| 21 | 実体験を聞くことができました。 |
| 22 | がんを扱うという考え方の一つの在り方が聞けたと思います。がんを理論的に捉えることが良いのかというと、不要と思った。緩和とは色々と考えていく事を思った。 |
| 23 | よく分からなかった。 |
| 24 | がんの説明が分かりやすかった。 |
| 25 | 結論はがんは完治しないということ。安楽死問題も考えていかなくてはならないのでは？ |
| 26 | 患者としての生の声（戸塚先生、筑紫さん）が共感できて、興味深かったです。 |
| 27 | 「がん」を一層身近に感じました。出来るだけ正しい情報・知識で「がん」と向き合いたいと思います。でも、「がん」に対する恐怖心を捨てることはできませんか？ |
| 28 | 一度は死ななければならないのなら、がんで死にたい（モルヒネの世話になりながら）。脳卒中はご免だ。心臓病で一気に死ぬのは…予定が立たない。 |
| 29 | 自分自身、実際にがんを発症した時、どう向き合っていくのか正直分からないが、今日の講演を聞き、その時が来たとききっと思い出すことだろう、少しは冷静になることができれば幸いと思う。 |
| 30 | 福祉との連携点を知りたい。 |
| 31 | パネル講演だったので、分かりやすかった。早期発見の大切さを感じた。死とどう向き合うかを考えさせられました。説明することは難しいと思うけれど、自身の持つ生命力ではないかと思いました。 |
| 32 | 腎臓がん、膀胱がんにて、一昨年、昨年、手術。お話を聞き、まだまだ治療が覚束ないのだなぁ…と。 |
| 33 | 苦痛で死を選びたい気持ちをどのようにすれば和らげ、人としての尊厳を持って一生を生きれるのか、ホスピスの必要性を思いました。 |
| 34 | がんと言われた時、受け止め方は色々あると思うが、自分は治療はしない。がんと共に生きる。しかし最終時痛みが来たときは、モルヒネをお願いしたい。いつがんがやってくるか分からないからこそ、毎日を大切に過ごして、笑顔を忘れないこと。今日また強く感じている。有難うございました。 |
| 35 | お陰さまで、身近にがん患者は居ませんから、色んなお話を聞かせて頂いて参考になりました。 |
| 36 | たくさんの具体例が挙げられているが、ご本人の向い方があまり語られていない点が残念。但し、全般的には参考になりました。 |
| 37 | 現在のがん治療の実態がよく分かった。今後さらに研究が進むことに期待します。 |
| 38 | 声がこもって聞きづらい。音響装置の関係か？（前列５列目の左隅） |
| 39 | 実際にがんを経験された方の話を聞くのは初めてで、全く言葉が心に残っています。特に「生きることががん化の道であり、がんにならない唯一の方法は死ぬことである」というのが、印象に残っています。このような講演会に参加するのは初めてでしたが、とても勉強になりました。有難うございます。 |
| 40 | 生あるものは、みながん細胞を担っているというお話は以前ＴＶで見ましたが、今日のお話はよく分かりました。現在主人が闘病中で、私は介護している状況です。ためになるお話を有難うございました。今後の介護に役に立つ学びでした。頑張ります。 |
| 41 | 日本にも早く安楽死を認めるようになればよいと思います。 |
| 42 | ためになります。がんの厳しさが、よく分かりました。 |
| 43 | 立花先生のがん闘病や他の方々の病気の資料をもとに、分かりやすく講演頂き、有難うございました。 |
| 44 | 立花氏の一生懸命な説明で、よく分かりやすかった。最後は安楽死まで出て、吃驚しました。激痛がある場合は、だれしも考えるだろう答えが出ない問題ですね。 |
| 45 | がんの現状について、大まかな理解ができた。がん難民対策について知りたい。 |
| 46 | 内容良かった。スクリーンが少々見えにくかった。文字のコントラストなど。 |
| 47 | 立花先生、有難うございました。考えさせられます。 |
| 48 | 筑紫さんの「黄金のワラ」末期患者のホスピスはもっと必要なのかと思いました。尊厳死についても考えさせられました。 |
| 49 | 新たな視点でのお話を聞くことができました。 |
| 50 | 「がんとどう向き合うか」には、まだまだ行きつけませんでした。とてもチャレンジングだということが分かりました。 |
| 51 | 私が５年前に大腸がんになり、この８月で完治（？）昨年７月に夫にすい臓がんが見つかり、２月に亡くなりました。この５年間、立花氏の本を読み、近藤氏の本を読み、近藤氏の主張に関しては？と思うことも多々ありましたので、今回のお話でちょっと納得です。まだまだがんの根深さを思いますが、がんになり日々を生きる大切さを感じています。 |
| 52 | お話が専門的で経過はよく分かりますが、このような状態の時、どんなことを学んで、どう精神的に支えられながら生きてこられたのかなど、聞きたいと思った。立花さんの生き方、考え方を聞かしてほしいと思った。 |
| 53 | がんと自然の流れの中で共存するしかないと、改めて思いました。結論まで出ないプロセスで、共に考察する機会となりました。 |
| 54 | 浅く広く、がんの初め～終わり（緩和ケア）が分かって良かった。時間が限られているので、深く入れないのが残念。 |
| 55 | 参考になるお話、伺いました。 |
| 56 | 重いお話でした。 |
| 57 | がんについて、これまでの知識では計りきれないという現実で、どう構えていくべきかが再考させられた話だった。 |
| 58 | これまで知らなかったことがたくさん聞けてとても参考になった。 |
| 59 | 最後の方に安楽死の話がありました。どう考えるかは大変難しい事ですが、色んな角度から日本でも議論していくべきことだと思います。それと、もっと進んでほしいと考える一つに、末期になった患者が、少しでも苦痛を小さくする医療を進めてほしいと思います。 |
| 60 | がんの事を知ることができ、考えが変わりました。 |
| 61 | 最終的での考え方（本人、介護者、肉親）、がんの基本説明が難しいか。安楽死もショック。がんもどき。まだまだ分からない、最後は自分？現状がよく分かった。 |
| 62 | がんとどう向き合うか！！少しわかった気がする。人間が生きると環境破壊。自らの体の元を生成するとは！！何のために生きるのかをしっかりと持ちたい。 |
| 53 | 恐ろしい話でした。 |
| 64 | がん≒死。人間は必ず死すもの。治療をしないのも一つの選択、と考えさせられた。自分ががんになったら、どうすべきか参考になった。 |
| 65 | がんについては色々分からないことが多い事は分かったが、もう少し緩和にフォーカスを当てた話が聞きたかった。 |
| 66 | 少し内容が暗くシビアでしたが、それが事実なのでしょう。ホスピスケアの内容を詳しく知りたかったです。 |
| 67 | 先日ＴＶで近藤さんの特集をしていたので、近藤さん寄りの意見に賛成でしたが、今日立花さんのお話を伺って、中立的な立場で物事を考えられるようになったと思います。事実を知れたと思いました。 |
| 68 | 人間は誰でも死が訪れる。自己の責任で判断が必要。金のワラにすがってはいけない。 |
| 69 | かなりハードな講演で、半分は納得できない部分があった。しかし考えなければならない問題である。 |
| 70 | 「がん」は多くの人の恐怖です。それから逃れるためにはやはり、早期に見つけることが大切だと思っています。私は検診第一だと思っています。高額医療でお金持ちはがんから生還できます。すべての方の治療が望まれます。 |

1. 良くなかった

|  |  |
| --- | --- |
| 1 | 話しにまとまりがない。 |
| 2 | 原稿を見ながらの講演なのに、話の流れがスムーズでないところがあった。Good PRをpartial response（反応）と説明されていたが、partial remission（寛解）ではないか。筑紫さんのエピソードは初めて知った。 |
| 3 | まとまりがない。 |
| 4 | もっと具体的に深く、立花氏個人の意見、考え（勿論がんに対して向き合い方を含め）を伺えると思った。既に知っている情報や何人かのがんで亡くなった方の治療経過ばかりでつまらなかった。（Ｎスペの著書も読んで、色々なお話を伺えると期待してたので、残念です） |
| 5 | こちらの体調が悪かったせいか残念な時間が過ぎた。苦しんでいる患者に何を与えようとしてくださっているのか分からなかった。がん患者の方を誘ったが、申し訳ない気持ちです。伝わってくるものがなかった。 |
| 6 | 声が聞き取りにくい。話が断片的で、主張がハッキリしない。抗がん剤についての是非を言わない。「がんもどき」を批判しても意味がない。 |

1. 全く良くなかった・・なし。
2. どちらともいえない

|  |  |
| --- | --- |
| 1 | 「がんとどう向き合うか」のタイトルに合わない。とても専門的。がんは他人事ではないという話でしょうか。 |
| 2 | 難しくて、内容がよく分からなかった。 |
| 3 | 最後の“安楽死を求める・・”、考えさせられた？？？？？ |
| 4 | 筑紫さんの残日録が胸に響きました。まだまだ生きたい心がひしひしと思われました。  まっとうな医療とは、代替医療に向かうことは本人の願いや家族の願いを考えたら、難しいものだと感じました。人間の生きたい気持ちがある限り、対処は？ではないでしょうか。  余命の告知、告知時期ついての個人差によるケアが必要と思われました。 |
| 5 | 成人がんが主で、自分としては受け止めようと思う。若くしてがん患者になった方への社会としての優しい責任へ・・。難しい話でした。 |
| 6 | 安楽死は合法になっているのですか。選べると良いのではと思う。 |
| 7 | 最初、興味深い話だったこと・立花隆氏も興味あったので面白かったが、あまりにも「がん」は莫大な範囲で、しかも難しい内容多く、ポイントを絞って講演  がんは色んな段階（発見・治療・緩和・終末期）のどの段階にいるかによって向き合い方も捉え方も違うと思った。途中、代替医療の所から「生きる目標を失う段階」（緩和ケア）に行くまでの流れが滞っている感じで、分かりやすかった。治療⇒緩和（への移行が一番難しいと思うのだが） |
| 8 | 多くの内容を伝えてくださろうとして、少しまとまりがなかったような気がした。 |

1. 未記入

|  |  |
| --- | --- |
| 1 | 同じがん患者として、とても一言一言が重く受け止めました。特に筑紫さん、戸塚先生のがん患者としての記録は何と言えばいいのでしょうか。衝撃でした。改めてがんそのものの病気を「自己責任」という言葉で表すとともに、現実の医療を改めて考えさせていただく機会を得ました。これからのがん治療にとても参考になり、考え方をグーと広げることができました。有難うございました。 |
| 2 | 「代替医療法」の話につながったのは意外でした。私も２０年前、家内も１年前にがん手術を施し、今は後遺症もなく過ごしていますので、直接療法しか知りませんでした。緩和ケアにもうひとつ関心が持てなかったのも、一応普通の病気のように治ったためでしょう。  尊厳死を考えるまでに至ってみないと分かりませんね。 |
| 3 | がんにかかる人は多いけれど、がんについてはまだ未知の所が多い。そしてがんで死ぬ人は多い（３人に１人）。だから、恐れることなく、がんと向き合うことは自分の生き方に向き合っていく事だと理解しました。 |
| 4 | 厳しい話を聞き、生と死を、自分の考えをしっかり考えないといけないと思った。 |
| 5 | 専門用語が出るので、全部理解できなかった。 |
| 6 | がんの最新治療や現場の新たな試みなど今後に期待が持てる情報を期待してきましたが、思っていた内容とは違いました。がん経験者のお話にしても、これからどう生きていけばいいのか光をさして頂きたかったのですが、かないませんでした。 |
| 7 | 近藤先生の本をもとに、がんをあまり深く考えなくていいように思っていました。半分本当、半分ウソは、とても興味深いものでした。友人ががんの末期にいますが、その日を迎えられるように日々暮らしています（友人も、私も）。良い視点でのお話しだったと思います。 |
| 8 | さすが立花先生の講演は、想像以上に深いお話を聞かせて頂き、誠に素晴らしい時を過ごさせていただきました。心よりお礼申し上げます。多くの疑問を解消できました。私は、夫と娘が、がん体験があります。 |
| 9 | 「がんは自分を変えていく」ということが理解できる。突っ込んだ話が聞けて、良かった。 |
| 10 | 私の場合は、夫が４１歳で胃がん発病、５か月で亡くなりました（４１年前）。手段がなかった母は２６年前に小細胞性肺がんで、当初は抗がん剤治療を、終末期は淀川キリスト教病院ホスピス病棟に入院し、痛みなく、人間的尊厳を失わず、やさしく微笑みながら逝きました。これは本人にとっても介護する家族にとっても有難い事でした。  夫の時の夫の苦しみを思うと、今ならもっと楽にしてあげられたのにと悔しい思いがします。もし自分ががんになったら、攻撃的な治療はせず、痛みだけ取ってほしいとと家族に常々話しています。  緩和医療が叫ばれながら、中々ホスピスが増えないのは何故なのか。医療界と製薬企業との癒着など、もう少し切り込んでほしいと思いました。 |
| 11 | がん難民、これ程悲しい言葉はないと思います。医者にさじを投げられたら、代替のものを頼ってしまうのは理解できます。それは良くないことだと分かっていても、いざ自分ががんになったら縋ってしまうのではないかと心配です。緩和ケアを早期から介入させることは重要だと感じました。他にもサポートするシステムが多種あれば、患者を支える助けになると思いました。重いお話で考えさせられること多々でした。 |
| 12 | 緩和ケアの話、興味深かったです。少しハードでしたが、これから色々考えを深めていければと思います。 |
| 13 | 強烈でした。がん患者にとっては、しんどい内容でした。 |
| 14 | よく聞き取れなかった。話し方が悪いのか、音響が悪いのか、マイクのセッテイングが悪いのか、はたまた私の耳が…。他の人は皆、聞こえて理解できたのでしょうか。  医学の専門家ではないし、患者であるので、がんになって、その時その時にどう対処されてきたのか。もっと具体的な話を期待したので・・。人（有名人）の話はもうよい。 |
| 15 | ５６歳で乳がんになり、オペと化学治療、ハーセプチン、ホルモン剤、あらゆる治療をして１０年目、再発は今のところありませんが、もしあってもあの化学治療はしたくないのが正直な気持ち。穏やかな薬があればそれを使い、最後は緩和ケアで…と考えます。  親の介護があり、まだ死ねないし、できれば息子の結婚や孫を見て、ありきたりですが、つながっていく生命を見たいと願っています。有難うございました。 |
| 16 | がんとはどのような病であるか分かったように思います。従って、いかに生きるか、生き方が重要でもあり、がんが発見されて年齢でどう向き合えばいいのかが決まると思いました。 |
| 17 | 人は６０兆個の細胞を持っている。がんは遺伝の病気である。自殺し、逃れるものもあるというなら、安楽死の選択も死に方。 |
| 18 | がんとがんもどき。もっと医療が進んで治してほしいが、人間が持っている遺伝子なら難しいようにも思える。むだな治療はしたくない。 |
| 19 | 興味あるお話をいろいろ聞かせていただきました。これからのがんの研究にも期待したいと思います。有難うございました。 |
| 20 | 「生きること」＝「がん細胞を育てる」という生物的な解釈がストンと心に入りました。自分の死後の世界や宇宙には興味がなくても、もし私なら、家族には執着、未練を感じるのではないかと思いました。緩和ケア。「死ぬ瞬間」を再読したい気持ちになりました。 |
| 21 | 現場の現実的な話を有難うございました！！立花先生ご自身もその病の中にいらっしゃいますが、どうぞお大事になさってください。がんと良い意味で、如何に戦い、如何に友（？！）となるか？考えさせられました。 |
| 22 | 心に響くお話にはならず、講演に相応しくなかったように思う。分かりにくかった（懸命にお話し下さったが）眠ってしまった。 |
| 23 | がんを取り巻く状況がよく分かりました。有難うございました。 |
| 24 | 結局どう向き合うのか・・・。遺伝子解析に期待しますが、環境因子もありますね。考えていきたいと思います。ゼミ生の方が安らかに過ごせますことをお祈りしています。 |
| 25 | がんについて、大変追いつめて話をされたことに共鳴しました。がんのありようは自己責任であると感じた。 |
| 26 | 安楽死まで考える患者がいることを受け止めなければならない。 |
| 27 | 父もがんでしたので興味があり、勉強になりました。自分の残りの人生を考えます。 |
| 28 | 興味のあるテーマを自身の経験から分かりやすくお話ししていただき、有難うございました。これから自分にもしこのようなことが起これば、先生のご意見を参考に考えていきたいと思います。 |
| 29 | いろいろ参考になりました。やはり難しい病気であることを再認識しました。 |
| 30 | がん患者さんが聞くと希望がなくなるような講演だったのではないか。中座した人（特に男性）が多かったように思います。  がんの末期は安楽死を求めるほど地獄の苦しみに襲われるという印象だけが残りました。 |
| 31 | がん＝生きる＝死　とても考えさせられた。素晴らしい講演でした。生きることはがんを育てることである。しっかり受け止めていきたいと思った。生死を考えさせられるものでした。さすが立花先生でした。有難うございます。 |

Ｑ２．開催に当たってお気づきの点があれば（ご批判・ご不満等も、その他何なりと）。

（１）吹田市内

|  |  |
| --- | --- |
| 1 | 立花さんはマイクの使い方が下手なので、音響技術さんがうまくやってほしかった。（聞きにくかった） |
| 2 | 以前に、埼玉県（川越だったと思います）在住のがん経験者の落語家の方の講演を聞き、とても参考になりました。今後、企画のアイデアに入れて頂きたいです。 |
| 3 | 時に言い淀まれるところがあり、講師の健康を案じています。スクリーンの画像が不鮮明な部分があり、惜しまれます。 |
| 4 | スライドが見にくかった。 |
| 5 | 会場内に、がんセンターの啓発パネル展があれば。ポインターが見えにくかった。 |
| 6 | アンケートの字が小さい。暗いところでよけいに見にくい。 |
| 7 | 市報掲載が小さすぎて、危うく見逃すところでした。もう少し大きなところで告知してください。 |
| 8 | 冷房が少し効き過ぎていました。 |
| 9 | 着席の案内がイマイチ。 |
| 10 | レーザーポインターの調子が悪いのは代替物を用意しておくなり、気を配ってちゃんとしてあげてほしい。 |
| 11 | 質疑応答があればと思いました。 |
| 12 | パワーポイントにプロジェクターのピントが合っていなくて、画像が見づらかった。 |
| 13 | クーラーで足元が冷えました。（勿論、防寒対策してましたが） |
| 14 | 使用のスライドが、半分分かりづらかった。 |
| 15 | 参加者は高齢者が多い（推定）。１０～１５分のトイレタイムがあったらと思った。 |
| 16 | 良い企画、有難うございます。但し、あまり良い季節で、皆さん行楽優先で来てくれません。 |
| 17 | 良いテーマである。 |
| 18 | スライドをもう少し見やすくしてほしい。 |
| 19 | 私語があり、無くなればよいと思う。 |
| 20 | 有意義。多分、講師が良かったのだろう。今後も期待します。 |

（２）吹田市外

|  |  |
| --- | --- |
| 1 | ゆったりと座れてよかった。 |
| 2 | 今回の講演の内容は、吹田ホスピス市民塾の方針と少しずれているように感じました。 |
| 3 | 立花隆さんを招いて下さり、有難うございました。 |
| 4 | 本日の立花隆さんのお声が聞こえにくい点が時々ありましたので、マイク使用等もっと考慮しても良かったのではと残念です。 |
| 5 | 先生のお休みの時間が少しあっても良かったのではと思いました。 |
| 6 | ポインターは何とかならなかったのでしょうか。 |
| 7 | がんは分からない、拒絶ではなく、共存も必要か、といったテーマも宜しく。 |
| 8 | 丁寧なご対応に感激しました。 |
| 9 | 大変良かったです。 |
| 10 | 次回も是非お願いします。 |
| 11 | 結構でした。 |
| 12 | もっと多くの人に来てほしかったです。 |
| 13 | 緩和ケアの表を出した時、少し小さくて、真ん中の左寄りの席でも見えにくかったので、もう少し後ろの人たちは見えない人がいたのかもしれないので、出来ればもう少し大きくしてほしい。 |
| 14 | 生と死の問題は、大いに興味あり。 |
| 15 | 皆さま、静かに聞かれて、聞きやすかった。 |
| 16 | 段取り、準備等大変だと思いますが、今後も頑張ってください。 |
| 17 | アンケートに鉛筆を付けてくださったのは感心した。 |
| 18 | スライドなどを使っていて、見やすかったです。 |
| 19 | スライドを使っていて、良かったです。 |
| 20 | 開催時間（日時）を考えてほしい。夜（ウイークデイの）が、有難い。 |

Ｑ３：「吹田ホスピス市民塾」の今後の活動について、ご意見やご希望を。

（１）吹田市内

|  |  |
| --- | --- |
| 1 | 今回初めてホスピス市民塾の存在を知りました。同年代や同病などの小さなグループで日頃感じる不安や新しい情報など交換する場があれば参加してみたいと思います。 |
| 2 | これから益々必要な活動だと思えるので、継続願いたい。 |
| 3 | 素晴らしい活動をしておられます。この講演会を私たちボランティア仲間（ＳＡ：ＳilverＡdvaiser）に知らせ、参加しました。 |
| 4 | 今後とも頑張って頂きたい。 |
| 5 | これからもこのような講演会をやって頂きたいです。正直、全く知りませんでした。これから関心を持ちたい。 |
| 6 | また、良い講演会をお願いします。今回の講演会でも話にありましたが、医療用麻薬の使用について、もっと理解していただけるような活動をお願い致します。一般の方はもちろん、医療関係の方でさえ、まだ誤った認識の方が多いのです。 |
| 7 | 良い会だと思います。 |
| 8 | 緩和ケアと在宅医療とのつながりについて |
| 9 | 続けていって下さい。 |
| 10 | あまり存在自体聞かないが、大事な活動だと思います。 |
| 11 | 活動を初めて知りました。有難うございました。 |
| 12 | がん患者を支える家族への支援について。自助的な対応、制度的な対策への考え方。 |
| 13 | 難しいと思うのは、他人事にしているせいでしょうか、一人で引き受けるのには、忍び難いと思うので、多くの方々にぜひ知って頂けるように機会をたくさん持っていただきたいです。 |
| 14 | このような設定機会を作って頂き、感謝申し上げます。 |
| 15 | 今後の活躍に期待します。 |
| 16 | 「がんになっても安心できる吹田のまちづくり」に賛同します。 |
| 17 | 私たち患者本人、家族のことを思いやってくださる活動、ただ嬉しく有難く思っています。今のまま、また進化していってくださる事を信じています。 |
| 18 | これからも頑張ってください。案内の手紙を頂き、嬉しかったです。 |
| 19 | 私は現在、地域活動以外は市民活動の一線から退いておりますが、久々に小澤さまのご活躍の姿に接し、とても嬉しく思いました。今後の発展をお祈り申し上げます。 |
| 20 | 今まで知りませんでした。今後は吹田市報に注意します。 |
| 21 | 鎌田先生のように、明るいインパクトを持った、元気がでる講演を準備してほしいと痛感しました。 |
| 22 | 有難うございます。今一度、しっかり考えようと思いました。 |
| 23 | 有難い事です。今後も頑張って頂きたいと思います。 |
| 24 | 地道な活動に感謝。 |
| 25 | 活動の目的、目標が、今ひとつ分からない。 |
| 26 | 頑張ってください。 |
| 27 | いずれは会員となって参加させて頂きたいので、これからも活発に吹田市で活動してください。 |
| 28 | 自然と語り合える環境を作ってください。 |
| 29 | 良き活動を期待いたします。とても良かったです。 |
| 30 | 高齢化に伴い、更にがんで亡くなる人が増えるが、その人々が苦痛なく死んでいけるような活動をしてほしい。 |
| 31 | 友人はホスピスを考えていますが、なるだけ自宅で自由にしたいと思っているようです。自宅でも苦痛のない日が送れるようにできれば良いと思っています。 |
| 32 | 会員が増えてほしいです。 |
| 33 | ２人に１人ががんになり、３人に１人ががんで亡くなる時代。誰もが持つ死の恐怖。生き方に関わる大切な存在です。長く活動し、多くの人を温かく包んでください。 |
| 34 | もう少し調べます。ぜんぜん知りませんでした。 |
| 35 | 具体的には、よく分からない。 |
| 36 | ３０～４０代の世代は、自分に関係ないと思っているので、この世代にアピールしてほしい。 |
| 37 | いろいろな病気の専門家の話を、日常生活をもとに話してもらえると有難い。 |
| 38 | 本日は有難うございました。 |
| 39 | 吹田にもホスピス病棟ができること望みたいです。 |
| 40 | がんについて、また開催してもらいたい。 |
| 41 | これからもこのような機会があれば嬉しいです。 |
| 42 | またハードな講演を期待します。 |

（２）吹田市外

|  |  |
| --- | --- |
| 1 | 少しでも長く続けてほしい。 |
| 2 | 混合治療のメリット、デメリット。ドクハラ対応。 |
| 3 | 頑張ってください。 |
| 4 | 近藤誠さんの話が聞きたいです。 |
| 5 | 市民塾という名は、馴染めない。研究会、考える会。 |
| 6 | 私もいつかがんになるかもしれませんが、その時は貴会の事を思い出し、入会させていただくかもしれません。 |
| 7 | これからも、このような機会に期待しております（豊中にはないので）。 |
| 8 | 会長さまをはじめ、このように多くの参加者の方々が来られ、本当に会員の皆さまの活動が素晴らしいものなのだと大変感動しました。 |
| 9 | 分からない。 |
| 10 | 良い活動だと思う。 |
| 11 | 良い活動、頑張ってください。 |
| 12 | 今回初めての参加です。機会があればまた参加したいと思います。市民塾の趣旨が広がりますように。 |
| 13 | 素晴らしい活動をされているのですね。また講演会など参加したいです。 |
| 14 | 益々のご発展を祈ります。 |
| 15 | 医療の情報公開へつながってほしい。 |
| 16 | 頑張ってください。 |
| 17 | 素晴らしい働きと思います。 |
| 18 | 排尿障害で水分制限に至ることがあります。冬場には特に見受けられますので、詳しい講座があれば希望します。 |
| 19 | 今日初めて市民塾の事を知り、とても良い活動と思います。これからも講演会など参加したいと思います。 |
| 20 | 頑張って頂きたい。 |
| 21 | また講演会をお願いいたします。 |
| 22 | 素晴らしい活動をされていることを知りました。 |
| 23 | 今後こういう活動をしていくことで、がんに関心がない人でもこれをきっかけに自分の身に起きたときに対応できるかも知れないので、続けてほしいと思います。 |
| 24 | 今後も続けて下さい。 |

Ｑ４：お住まいは。２３６名。

1. 吹田市：１４５名（６１％）　②豊中市：１９名（８％）③大阪市：１８名（８％）

以上小計１８２名（７７％）

④（以下４名）：宝塚市・島本町

⑤（以下３名）：摂津市・池田市・茨木市・高槻市

⑥（以下２名）：西宮市・枚方市

⑦（以下１名）：横浜市・京都市・奈良市・伊丹市・守口市・箕面市・松原市・阪南市・泉佐野市・

羽曳野市・川西市・大東市・交野市・薩摩川内市・豊能郡

⑧吹田市外（都市名不明）：９名

　　　（未記入：６名）

Ｑ５：この講座を、何でお知りになりましたか（複数可）。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 吹田市内 | | | 吹田市外 | | |
| 1 | チラシ・ポスター | ４２ | 1 | 知人から | ４０ |
| 2 | 会員から | ３５ | 2 | チラシ・ポスター | １６ |
| 3 | 知人から | ３２ | 3 | 会員から | １１ |
| 4 | 市報 | ２３ | 4 | 新聞 | ８ |
| 5 | 会員 | ９ | 5 | 会員 | ３ |
| 6 | ＤＭ | ７ | 6 | ＤＭ | ５ |
| 7 | 新聞 | ６ |  | 市報 | ０ |
| 8 | 書店 | １ |  | 書店 | ０ |
| 9 | その他 | ＊１１ | 7 | その他 | ＊＊８ |

* ：ＨＰ④　メイシアター②　立花先生ＨＰ②　健康展①　ラコルタ①
* ＊：「毎日が発見」②　立花先生ＨＰ②　他の講習会②　ＨＰ①

その他：

1. 当日の入会者：４名。　入会の希望者：６名。　計１０名。
2. 当日の配布物：

①リーフ「知れば安心　がん情報」（がん情報サービス）

1. 冊子：「身近な人が　がんになった時」（がん情報サービス）
2. リーフ：「吹田ホスピス市民塾」活動のご案内
3. 挨拶（骨子）、ご案内・お願い
4. アンケート用紙
5. クリアホルダー（吹田ホスピス市民塾名）
6. 市立吹田市民病院市民公開講座、読売健康講座、チラシ
7. ピツエン

以上